

冬春期作型における良日持ち性ダリア エターニティシリーズの切り花特性



図1 エターニティトーチ



図2 エターニティルージュ

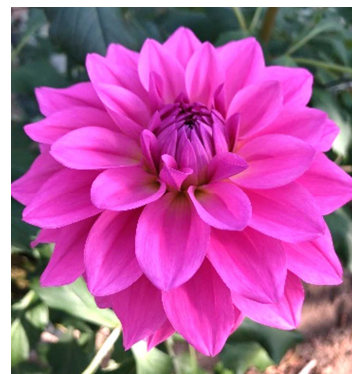


図3 エターニティロマンス

表 良日持ち性ダリア品種および対照品種の収穫本数及び切り花品質^{z)}

品種	開花始期		収穫 本数 ^{x)}	切り 花長	最大 花径 ^{w)}	露心率 ^{v)}
	収穫 開始日 (月/日)	到花 日数 ^{y)} (日)				
エターニティトーチ	11/8	61	14.3	102.5	17.7	0.0
エターニティルージュ	10/22	44	20.5	102.4	10.9	0.8
エターニティロマンス	10/7	29	23.3	92.5	12.6	17.8
かまくら	10/18	40	23.3	98.4	13.2	7.8
黒蝶	11/2	55	14.7	120.4	17.9	35.2
ミツチャン	11/2	55	17.8	96.8	10.7	13.0

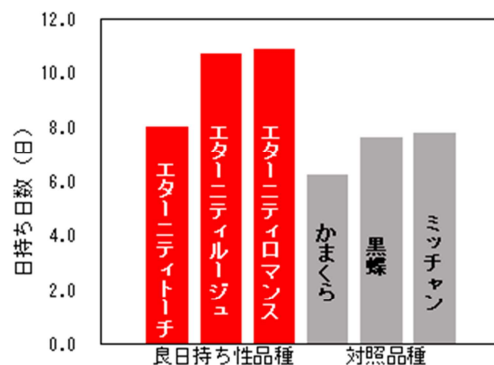
z) 定植日：2021年8月2日 調査期間：2021年10月18日～2022年3月31日

y) 到花日数は、最終摘心後の1番花収穫開始日までの平均日数。

x) 収穫本数は、収穫時における奇形花・露心花を除く株当たりの1番花の収穫本数。

w) 収穫3日後の花径を測定。

v) 収穫3日以内に露心した花の発生率。

図4 良日持ち性ダリア品種および対照品種の良日持ち日数^{z)}z) 定植日：2019年8月1日 調査期間：2019年10月21日～12月24日
調査本数は5～9本、23℃設定、湿度80%±10%、蛍光灯下(500～600Lx、12時間日長)の恒温恒湿試験室内で調査。生け水は蒸留水、切り花は茎長を40cmに調整して挿し、花弁全体の3分の1に萎凋や褐変が確認されるまでの日数を調査。

ダリアは日持ちが短く、消費拡大に向けて日持ち性の向上が求められています。そこで農研機構では、2014年から日持ち性向上を目標に、豪華な花容で鑑賞性が高い‘エターニティトーチ’（図1）、くすみのないきれいな赤色の‘エターニティルージュ’（図2）、桃色品種としては花径が大きい‘エターニティロマンス’（図3）の3品種の育種が進められてきました。花き担当では農研機構からの委託により「良日持ち性ダリア育成系統の系統適応性・特性検定試験」を実施しており、本県におけるエターニティシリーズの冬春期作型での適応性と、切り花特性を調査しました。

その結果、到花日数は‘エターニティロマンス’が最も短く、‘エターニティトーチ’

が最も長くなりました。切り花長はいずれの系統も2L規格の70cmを上回っており‘エターニティトーチ’や‘エターニティルージュ’では、露心の発生もほぼ見られませんでした（表）。

日持ち日数は‘エターニティロマンス’が10.9日と最も長く、いずれの系統も対照品種より長くなりました（図4）。

以上より、良日持ち性ダリアエターニティシリーズは本県の冬春期作型での適応性が認められ、今後の普及が期待されます。農研機構ではさらに日持ちの長い系統が育成されているため、継続して適応性・特性検定試験を行う予定です。

（花き担当 山下真司*、吉良智絵

088-863-4918） *現 幡多農業振興センター